

「ミツバチの羽音と地球の回転」 山陰リレー上映 琴浦会場

どのようなエネルギーを選択するのか、今、私たちは問われています。

鎌仲ひとみ 監督



ストーリー

瀬戸内海 祝島では自給自足的な暮らしが営まれ、猟師やおばちゃんたちがきれいな海を守りたいと28年間も原発建設に反対してきた。しかし、圧倒的な経済力と権力が原発建設を推進し続けている。一方、北欧のスウェーデンでは脱石油・脱原発を決め、着実にエネルギーを自然エネルギーへとシフトし、持続可能な社会づくりが進んでいる。

どうしたら未来のエネルギーを自分たちの手で選択し、作り出せるのか。私たちと全く同じ普通の人々の感性と思いが国を超えて交差し、新しいビジョンを描きだす。

福島原発の事故が起こる前から 私たちの未来を求めたドキュメンタリー映画

震災以降、にわかに原発とエネルギーを考え始めた日本。構造的な環境破壊を根本から見直し、新しいエネルギーの作り方、使い方を探りながら社会のシステムそのものをシフトしていかなければ未来が無いことを多くの人が理解し始めています。だけど、どうすればいいのか、未来がイメージできない。そんな人たちに見ていただきたい、ヒントがここにあります。

上関原発予定地(山口県上関町田ノ浦)

1982年に持ち上がった中国電力の原発建設計画。予定地の対岸に浮かぶ祝島では千年も前から自然と共にある暮らしが続いてきました。島民は未来の世代に豊かな海を残したいと計画に反対し続けています。予定地周辺には絶滅が危惧される多様な希少生物が生息しています。

過疎と高齢化が進む祝島に、原発は経済効果と雇用を産むのだから、と説得しようとする中国電力。

祝島だけでなく、地方がみんな抱えている現実。祝島の人たちと中国電力のやり取りに、琴浦の姿も重なって見えて来ます。

実はエネルギーをシフトするには民主主義や情報の透明性、人権意識の高さが必要でした。

福島事故を受け、上関原発建設計画も今は中断しています。このまま 計画中止となるのか、再び建設へと動き出すのか。私たちの選択が問われています。

《映画を観たある農家さんからのメッセージです》

琴浦の豊かな環境を未来に引き継ぐためには農林水産業の維持発展の努力が欠かせませんが、今後増大する異常気象・地殻変動(地震等)に島根原発が耐えられるでしょうか？ひとたび軽い事故があれば風評被害に農林水産業は耐えられるでしょうか？福島の事も、祝島も、他人ごとではないです。

会場：「まなびタウンとうはく」3F ハイビジョンシアター (琴浦町浦安)

日時：平成23年 9月 17日 (土) 1回目 10:00~
2回目 14:00~
3回目 18:00~

開場はすべて30分前から (上映時間 135分)

チケット：前売 1000円 当日(残数があれば)1500円

お問合せ：山陰リレー上映会 琴浦実行委員会 090-7892-8773 (藤枝)